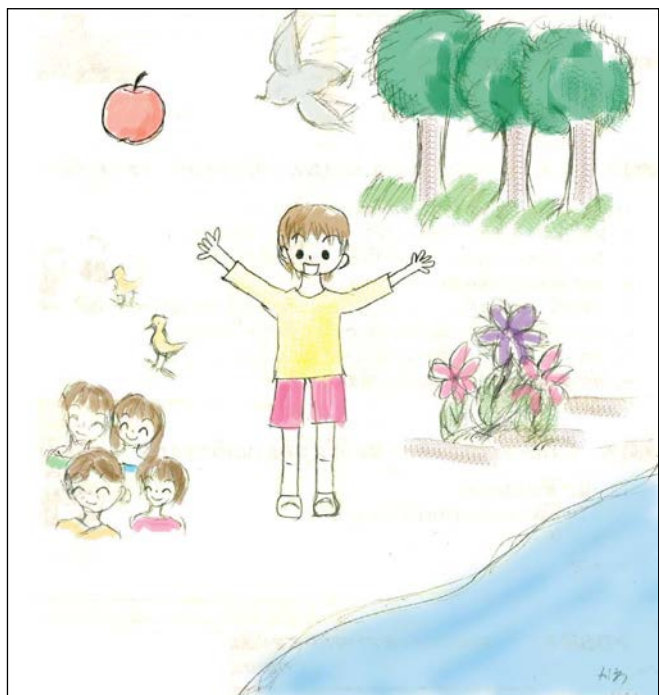




◆市の木：サクラ

第1章

坂戸市の概況と課題

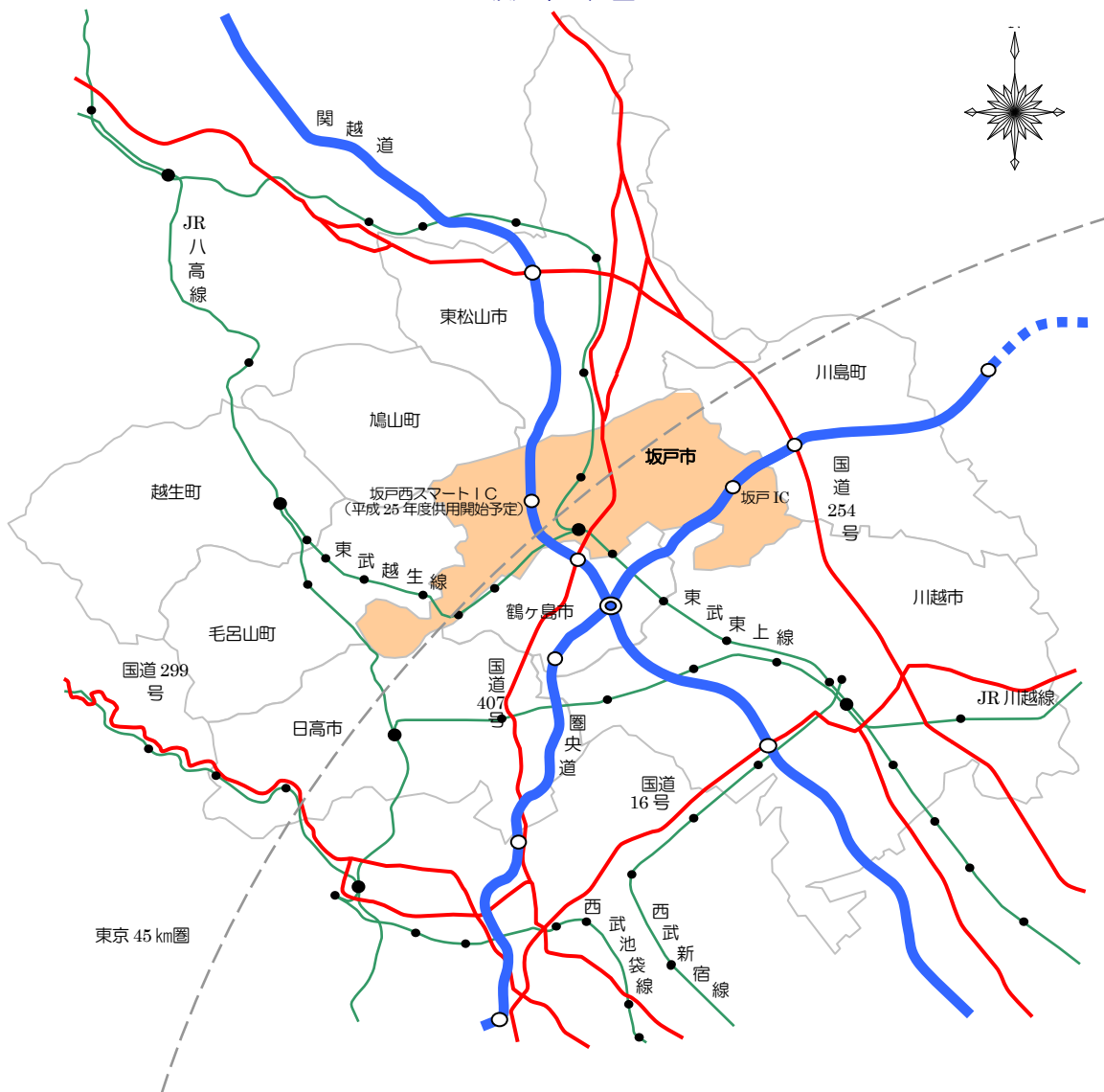


1. 坂戸市の概況

(1) 広域的位置づけと役割

- 本市は、埼玉県のほぼ中央に位置し、都心から 45km 圏にあります。市域は東西に長く、面積は 4,097ha の広がりを持っています。
- 高速自動車道は、関越自動車道（以下「関越道」という。）が南北方向に縦断し、主要都市間を環状方向に結ぶ首都圏中央連絡自動車道（以下「圏央道」という。）坂戸インターチェンジ（以下インターチェンジは「IC」と記載する。）が整備され、広域交通網の結節地域となっています。
- 鉄道は、東武東上線、東武越生線の2路線が通っており、坂戸駅から池袋駅まで約 45 分という都心に近い距離にあります。交通の利便性から都市基盤整備が進み、東京方面への通勤人口が多い首都圏近郊の住宅都市となっています。
- おおむねまとまった形態で農地が形成されており、現在の農地面積は市域の 3 割程度を占めるなど、県西部地域の良好な農業地域となっています。

■坂戸市の位置



(2) 坂戸市の特性

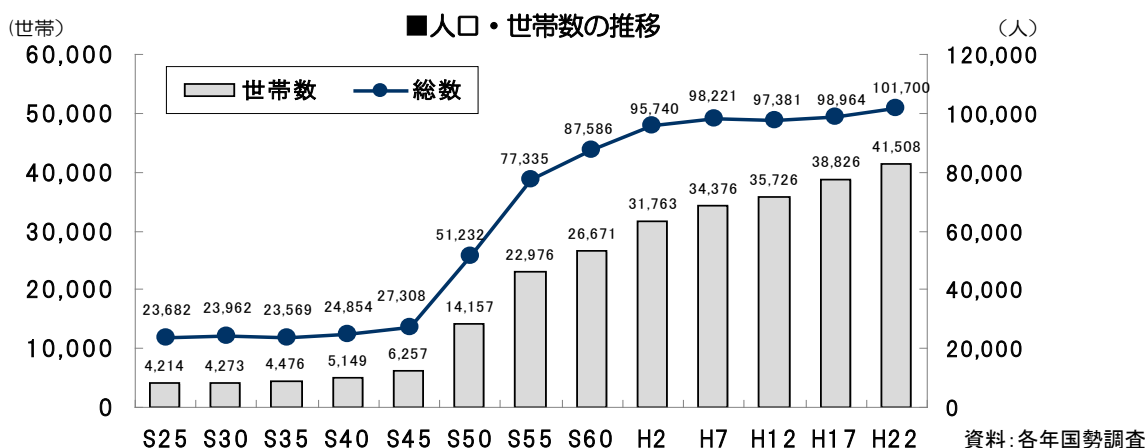
本市の大きな特色としては、次のようなものが挙げられます。

【歴史】

- 江戸時代、八王子から日光に至る街道の宿場町として栄える一方、恵まれた地力を生かした農業も盛んでした。
- 明治29年12月、坂戸村から坂戸町に改称され、昭和29年7月には坂戸町・三芳野村・勝呂村・入西村・大家村の5町村が合併し新生坂戸町となりました。
- 昭和40年代半ばから公団などによる住宅団地の建設が続き、人口が急激に増加し、昭和51年9月1日には市制（県下で39番目）が施行されました。

【人口】

- 平成24年4月1日現在の人口・世帯数は、101,068人、42,567世帯です。昭和40年代から急激な人口増加がみられましたが、近年は、ほぼ横ばいになっています。
- 高齢化率は、全国平均を下回っていますが、団塊世代の比率が高くなっており、今後、急速な高齢化の進行が予想されています。

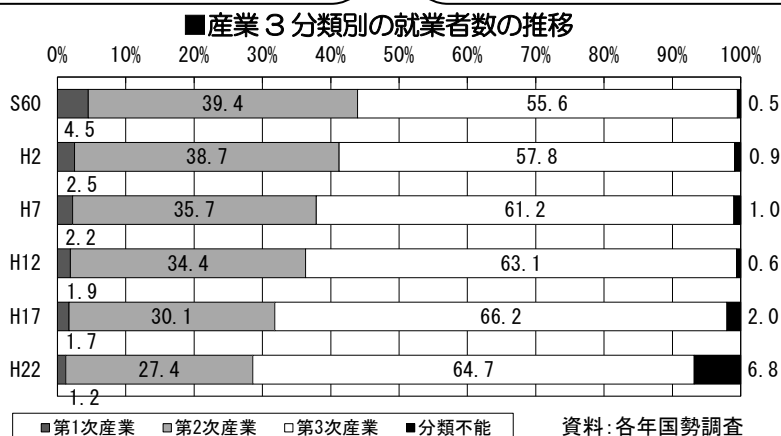


【産業】

- 農業：農業人口、農家数、経営耕地面積とも減少傾向となっています。
- 工業：富士見工業団地とっさい花みず木地区に大規模な工場が立地しています。
- 商業：商店街の立地場所は坂戸駅周辺、北坂戸駅周辺、若葉駅周辺、東坂戸地域、西坂戸地域の5地域となっています。また、大型店は坂戸駅周辺、北坂戸駅周辺、国道407号沿道、とっさい花みず木地区に立地が集中しています。

【土地利用】

- 坂戸駅、北坂戸駅、若葉駅を中心に市街地が形成され、市の主要な都市機能が集積しています。
- 市街地を取り囲むように水田を中心とした農業、集落地域が広がっています。
- まとまった水田地帯は農用地に指定されています。



【道路・交通】

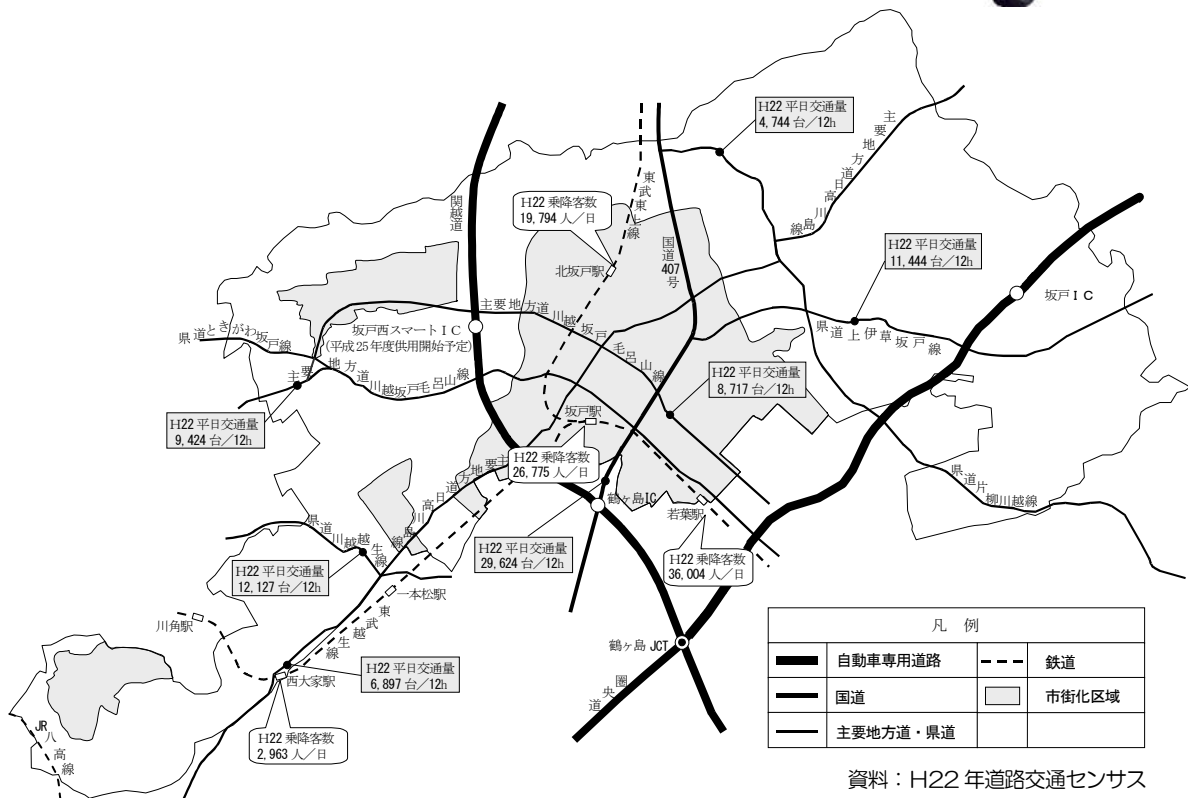
- 鉄道は、東武東上線と東武越生線が通っており、池袋駅まで約45分の距離になっています。
- 道路は、国道407号を中心に主要地方道・県道で骨格を形成しています。高速自動車道は関越道が南北に縦断しているほか、東部地区に圏央道の坂戸ICが開通しました。
- バスは、路線バス及び市内循環バスの運行により、ほぼ全域を網羅しています。

【都市計画】

- 市街化区域は、市の中央部や周辺の住宅団地に指定されており、市域の約1/4を占めています。
- 用途地域は、8割近くが住居系になっています。



◆市内循環バス



【都市整備状況】

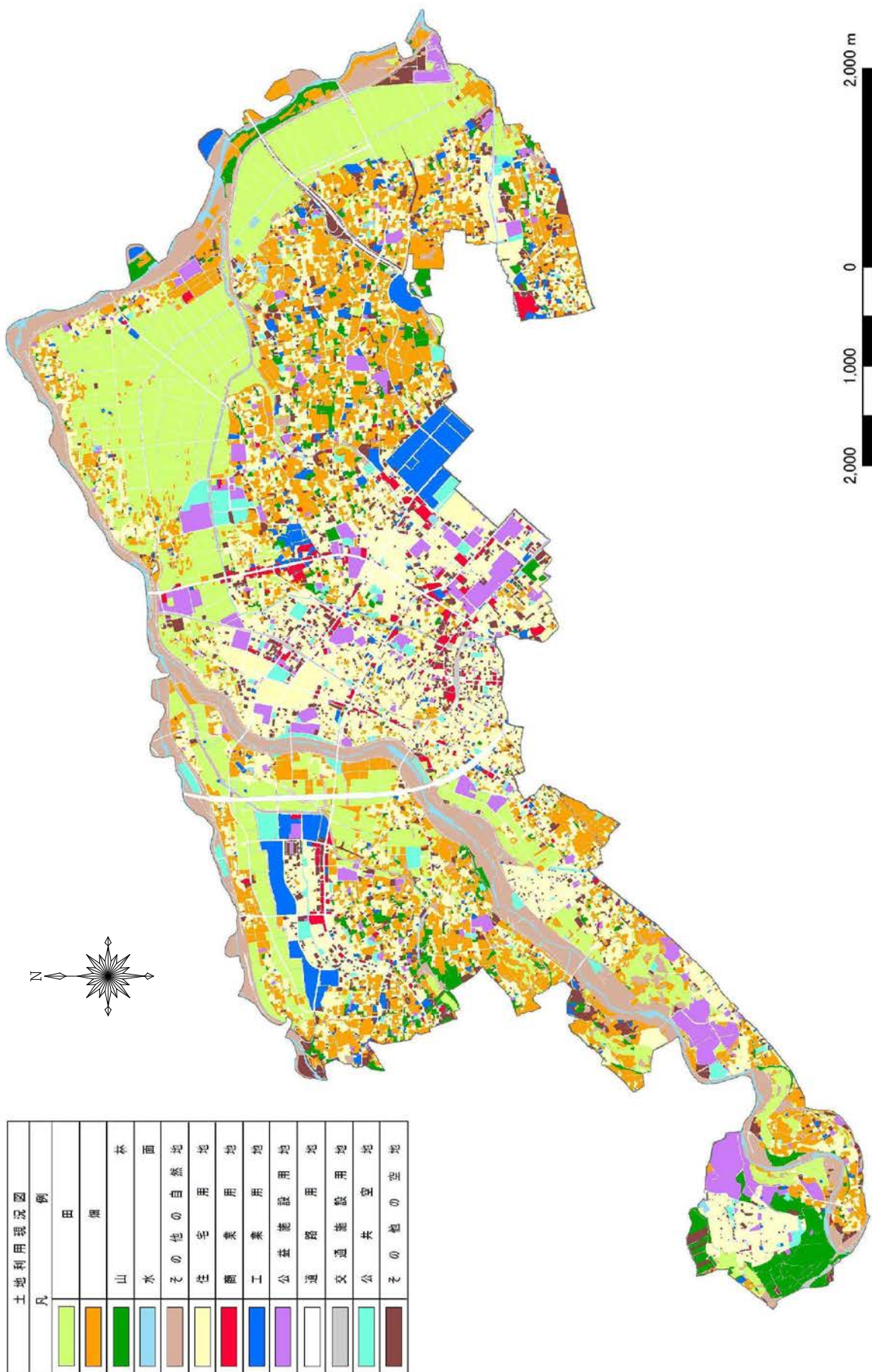
- 市街化区域のうち約5割で面的整備が施行済みになっています。
- 都市計画道路の約7割が整備済みになっています。
- 関越道の坂戸西スマートICが平成25年度供用開始予定となっています。
- 都市公園は、土地区画整理事業等により整備が進んでいます。
- 下水道の普及率は約6割を超えています。

【緑・自然・景観資源】

- 緑地は、城山周辺の森林、農地、河川区域の緑地が特徴となっています。
- 高麗川・越辺川などの良好な水辺環境を有しています。
- 社寺境内林や歴史資源が数多く点在しています。
- 郷土の景観には、水田を中心とした田園風景、屋敷林のある集落の風景があげられます。

■土地利用現況図

出典：都市計画基礎調査（平成22年）



(3) 上位計画・関連計画における位置づけ

① 県計画における坂戸市の位置づけ

○「埼玉県5か年計画」(平成24年度～28年度)

坂戸市は、「埼玉県5か年計画」地域別版において、川越比企地域に位置づけられています。

【「川越比企地域」の主な地域づくりの方向性】

- ・圏央道と関越自動車道が結節する地域特性を生かしつつ、地元市町や民間と連携して周辺の自然や景観、農地・林地との調和に配慮し、産業基盤整備を進めます。
- ・円滑で安全な道路網を形成し、経済活動を支えるため、国道407号バイパスなどのインターチェンジへのアクセス道路をはじめ、幹線道路を整備します。
- ・歩道の整備や自転車通行帯の設置を進めます。
- ・川島の中央防災基地や防災航空センターなどを核とする危機管理防災体制を強化するとともに治水対策をさらに進めます。
- ・環境に配慮した河川改修を進めるとともに、河川の水質改善に向けた河川浄化の取組や親水機能の保全・創出を進めます。
- ・多様な企業が集積を図り、雇用の創出など地域の活力を高めます。
- ・多彩な観光資源のネットワーク化を図り、観光客が繰り返し訪れる魅力ある観光地づくりを進めていきます。
- ・県下屈指の数を誇るNPOをはじめ、地域団体、大学などと一体となって、多彩な自然や農山村の環境と、業務、商業、文化などの都市機能が調和したまちづくりを進めていきます。

○坂戸都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(平成16年4月)

【都市づくりの基本理念】

- ① 自然環境と共生した住みよい都市をつくる。
- ② 健康で安心して暮らせる生活環境を築く。
- ③ 産業を振興し、地域の活性化を図る。
- ④ 市民との協働によるまちづくりを推進する。
- ⑤ 交通ネットワークの充実による周辺地域との連携強化を図る。

川越比企地域

■「埼玉県5か年計画」地域別計画における坂戸市を含む広域的な状況

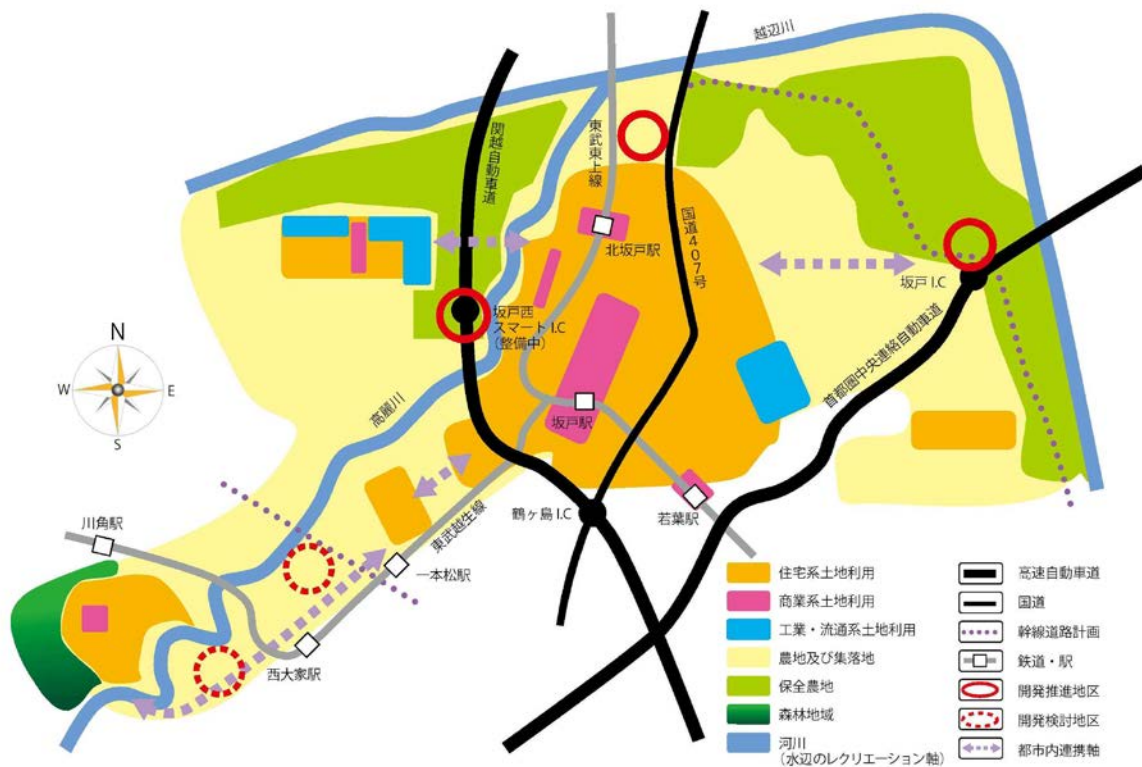


② 上位計画

○第6次坂戸市総合振興計画（平成24年度～平成33年度）

- ・将来像：「笑顔でつなぐ躍動のまち、さかど」
- ・《戦略プロジェクト》
 - ◇笑顔のまちプロジェクト
 - 多様な健康増進施策の実施
 - 地域福祉の推進
 - 防災・減災、危機管理の徹底
 - ◇次世代につなぐまちプロジェクト
 - 地域による教育・子育て支援
 - 市民との協働による環境問題への取り組みの推進
 - 協働による質の高いまちづくりの推進
 - 地域公共交通の充実
 - 公共施設管理・社会資本マネジメントの実施
 - ◇躍動のまちプロジェクト
 - 市民交流の活性化
 - 市内産業の活性化、新たな企業の誘致
 - 市民による学び合いの促進
 - シティプロモーションの展開

■第6次総合振興計画—土地利用構想図



2. 都市づくりに向けた基本課題

市の広域的な役割、特性、市民の意向や、以下に示す留意すべき社会的視点などを踏まえ、今後の都市づくりに向けた課題を次のように整理しました。

【留意すべき社会的視点】

- 少子・高齢社会の進行
- 省エネ・リサイクルなど環境問題への関心の高まり
- 市民参加のまちづくり意識の高まり
- 成長社会から成熟社会へ
- 東日本大震災の発生等による防災や防犯意識の高まり
- ワークスタイル、ライフスタイルの多様化
- 地域経済の沈滞化
- 国際化社会の進展
- IT社会の進展
- ユニバーサルデザインの浸透

1. 都市全体の活力を高めていくことが必要です。

- ① 中心市街地や地域の活性化
- ② 農業や地域産業の活性化

2. 計画的な土地利用の推進を図ることが必要です。

- ① 市街地の計画的な基盤整備と土地利用の推進
- ② 良好な環境と共生する集落地の秩序ある土地利用の推進

3. 交通網の充実・強化と交通環境の改善を図ることが必要です。

- ① 幹線道路網の充実・強化
- ② 駅を中心とした交通拠点機能の強化
- ③ バスなど公共交通の充実
- ④ 交通安全対策の推進
- ⑤ 鉄道輸送力の増強

4. だれもが安心・快適に住み続けられる住環境づくりが必要で。

- ① ユニバーサルデザインの導入
- ② 暮らしに密着した生活基盤の整備・充実
- ③ 少子・高齢化に対応したまちづくり
- ④ 東日本大震災の教訓を踏まえた防災まちづくり
- ⑤ 防犯に配慮したまちづくり
- ⑥ 環境負荷の軽減への省エネ・リサイクルなどの促進
- ⑦ 良好な街並みの維持・向上

5. 良好な地域資源の保全と都市づくりへの活用が必要で。

- ① 自然・緑地・歴史及び景観資源の保全と活用